

# 宮城県図書館の取り組み

東日本大震災アーカイブ国際合同シンポジウム

宮城県図書館 熊谷慎一郎



# 1 宮城県図書館の震災文庫への取り組み

## ■ 「東日本大震災文庫」

- 東日本大震災の記録や関係資料の収集し、様々な利用(研究, 防災教育, 将来発災時)に供するとともに、永く後世に引き継いでいく。
- 収集対象は「東日本大震災」に関する資料全般
  - 記録集, 写真集, 録画等映像資料, 調査報告書、論文集など
  - 救助・復旧活動等の計画書, 活動記録集, 報告書, 避難所だより, 壁新聞, 相談会, セミナー・イベント等の配布資料やチラシ, 手記, 体験記録, 文集, フリーペーパー, ミニコミ誌, 学校だより(同窓会・PTA), 各団体の広報紙, 儀式での式辞(あいさつ, 祝辞, 送辞, 答辞, 誓いのことば)など
- 収集部数
  - 可能な限り複数(3部=展示・貸出し・保存用)を収集



### 3 震災文庫への取り組みと課題

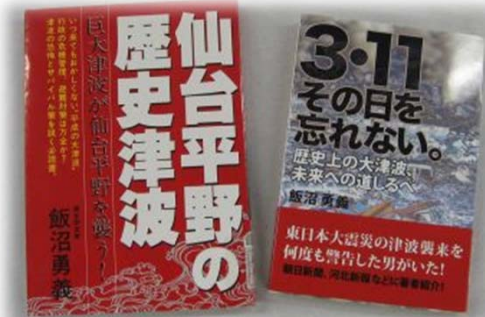
#### ■ 課題

- 資料の収集
  - 集める(≠集まる)
    - 図書館で待っていても資料は集まらない
    - なにをみつめるのか
  - 分担収集の可能性
    - 地域の資料は地域で収集・保管したい
      - ・ 持続性の担保, 財政的な手当
    - 図書館, 博物館, 資料館, 公民館…
      - ・ 図書館未設置の自治体の存在
- 利用のために
  - 目録化・メタデータの付与
  - デジタル化＝デジタル化するものを集めている段階
    - なにをデジタル化するのか
- デジタルアーカイブの前に必要な取り組み＝きちんと収集する

## 4 震災関連の事業とアーカイブ

### ■ アーカイブの重要性

著者の飯沼勇義氏は過去の記録を丹念に調査し、10年以上前に仙台平野への津波対策に警鐘を鳴らしていた。



日本三代実録 50巻

刊本 寛文13跋 京都 林権兵衛  
20冊 (青柳文庫A210-ニ2)

日以從五位上菅野朝臣佐世為次侍從 五月  
戊午朔五日壬戌停端午之節 廿六日癸未  
陸奥國地大震動流矢如晝隱映頃之人民呻吟  
伏不能起或屋仆壓死或地裂埋殮馬牛駭奔或  
相屏踏城墪倉庫門櫓墻墮顛覆落顛覆不知其數  
海口哮吼聲似雷霆驚濤涌潮洑漲長忽至城  
下去海數千百里浩々不辨其涯洩原野道路物  
為滄溟乘船不遑登山難及溺死者千計資產苗  
稼殆無不遺焉 六月丁亥朔 十一日丁酉月  
次神令食祭遣親王公卿於神祇官奉祭 十五

デジタルアーカイブとして整備するのはこのように旧来から図書館が所蔵している資料も対象としたい。



ご静聴ありがとうございました  
宮城県図書館